

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成30年9月20日
タイトル	学校に「くわい」を植えたよ！2018
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成30年7月18日（水）福山市立川口小学校5年生88名が「くわい」を植える農業体験をしたので取材しました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培しており、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

川口小学校の校庭にあるミニ田んぼで5年生が、4、5時間目にくわい植付けをしました。植える「くわい」は、芽が伸びて矢じりの形の葉が出ています。



校庭のミニ田んぼには子ども達お手製の「くわい畑」の看板が設置してありました。

校章にもくわいが使われておりくわいの栽培は川口小学校の伝統となっているようです。



福山藩主の家紋、水野家の「くわいの葉」と阿部家の「鷹の羽」が使われる

熱中症予防のため植付けをする班以外の子は少し離れた日陰で待機し、順番になるとひとり一人くわいの苗を持ってミニ田んぼへ行きます。ミニ田んぼに入るのに、なかなか一步ができません。土の感触に思わず「うわあ」と声があがります。「気持ち悪い」と言う子どももいましたが、みんなの顔は笑顔になっていました。なかには「気持ちいいからもう少し田んぼにいたい。」と先生にお願いする子もいました。

植付けは、はえなわのように印を付けたロープを準備してはえなわ係の子どもがロープを張って、印のところに一人ずつ植えました。片手で苗を持ちもう片方の手で土を掘ってその穴に苗を入れ、すばやく周りの土を被せて植えていました。

植えながら「いつ収穫するのかな」と早くも収穫してからのことを考えていて、みんながくわいの農業体験を楽しむにしていることが窺え、この農業体験が川口小学校に根付いていることを実感しました。

また、子ども達に水土里ネット福山から農業用水路への転落防止のチラシと福山市の備蓄用飲料水「福山の水」を配布し防災を呼びかけました。

秋には出前授業を計画しています。くわいの成長とあわせて子ども達の成長が楽しみです。

水土里ネット福山は、こうした取り組みに協力し子ども達に農業を通じて「ふるさと」の素晴らしさを伝えられるよう21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。